

# 漢語サ変動詞「脱 N する」の意味と構文

張 善実

DOI: 10.18999/stul.31.59

## 1. はじめに

本研究では、語構成論の観点から「脱帽する」や「脱獄する」のような「脱 N する」の意味的・構文的特徴について考察し、「脱 N する」には「脱帽類」「脱腸類」「脱皮類」「脱線類」「脱獄類」「脱臭類」「脱毛類」「脱臼類」の 8 つに分類できることを述べる。

小林(2001、2004)、中川(2005)は、「脱(V)線(N)する」や「脱(V)毛(N)する」のような漢語サ変動詞(以下、V-N 型漢語動詞)が語外部にさらに項(N'P)を取る場合、その N'P は語内部の語構成と関わると述べている。しかし、これらの研究では語内部の名詞的要素 N に重点が置かれており、動詞的要素 V にはほとんど言及されていない。そのため、どのような動詞がどのような N'P を取り得るかまで掘り下げて考察するには至っていない。それに対し、張(2011、2013a、2013c、2016)では、V-N 型漢語動詞のうち、それぞれ「受 N する」、「除 N する」、「離 N する」、「着 N する」の意味的・構文的特徴を本動詞との関わりから考察しており、どのような動詞がどのような N'P を取り得るかについて論じている。

本研究は、張(2011、2013a、2013c、2016)の延長線として、「脱 N する」を分析対象にし、(i)「脱 N する」の内部構成と、(ii)「脱 N する」の外部構成、(iii)N'P と N の意味関係の 3 つの側面から、「脱 N する」が N'P を取るか否か、N'P を取る場合、どのような動詞がどのような N'P を取るかについて分析するものである。

このうち、(i)「脱 N する」の内部構成とは、「脱 N する」の「脱」と N がいかなる格関係で結合しているかについて言うものである。「脱 N する」の「脱」には「脱ける」という自動詞の意味で使われるもの、「脱く」という他動詞の意味で使われるもの、

「脱ぐ」という他動詞の意味で使われるものの三通りがある。このうち、「脱ける」の意味で使われるものには N が〈移動物〉を表す場合と〈離脱点〉を表す場合の二通りがある。それに対し、「脱く」や「脱ぐ」の意味で使われるものには N が〈移動物〉を表すのみで、〈離脱点〉を表す場合はない。このように「脱 N する」の内部構成は表 1 に示されるように I 類～IV 類の 4 つのパターンに分けられる。

表 1 「脱 N する」の内部構成要素の結合パターン

「脱」の意味	N〈移動物〉	N〈離脱点〉
脱ける(自)	I 類:[N が脱ける] (「脱腸する」)	II 類:[N から脱ける] (「脱線する」) [N から／を脱ける] (「脱獄する」)
脱く(他)	III 類:[N を脱く] (「脱臭する」)	×
脱ぐ(他)	IV 類:[N を脱ぐ] (「脱帽する」)	×

一方、(ii)「脱 N する」の外部構成とは、「脱 N する」が文の形成においていかなる格を取るかについて言うものである。「脱 N する」には(1)の「脱腸する」や(2)の「脱線する」、(3)の「脱獄する」、(4)の「脱帽する」のように自動詞用法のものもあれば、(5)の「脱臭する」のように他動詞用法のものもあれば、(6)の「脱毛する」のように自他両用法のものもある。

- (1) 子供が脱腸する。(自)
- (2) 電車がレールから脱線する。(自)
- (3) 捕虜が収容所{を／から}脱獄する。(自)
- (4) 選手たちが脱帽する。(自)
- (5) a. 作業員が店内の臭いを脱臭する。(他)  
b. 作業員が店内を脱臭する。(他)
- (6) a. 薬の副作用で髪の毛が脱毛する。(自)  
b. 美容院で両わきを脱毛する。(他)

最後に、これらの動詞の(i)の内部構成と(ii)の外部構成における自他性に注目すると、(7)～(11)のように外部構成における自他と「脱 N する」の「脱」の自他が一致するものが多い。

- (7) 子供が脱腸する(自) …[腸が脱ける](自)  
(8) 電車がレールから脱線する(自) …[線路から脱ける](自)  
(9) 捕虜が収容所{を/から}脱獄する(自)…[監獄{を/から}脱ける](自)  
(10) a. 店内の臭いを脱臭する(他)…[臭いを脱く](他)  
b. 店内を脱臭する(他) …[臭いを脱く](他)  
(11) a. 髪の毛が脱毛する(自) …[毛が脱ける](自)  
b. 両わきを脱毛する(他) …[毛を脱く](他)

一方、「脱 N する」には、外部構成における自他と「脱 N する」の「脱」の自他が一致しないものもある。例えば、「脱帽する」の場合、「脱帽する」全体は(12)のようにヲ格(「野球帽」)を取らない自動詞用法であるが、「脱帽する」の「脱」自体は「帽子を脱ぐ」という他動詞用法である。

- (12) 選手たちは一斉に(\*野球帽を)脱帽した。(自) …[帽子を脱ぐ](他)

さらに、「脱 N する」は、(i)内部構成と(ii)外部構成における自他性が一致する場合、外部構成において取る項(N'P)と「脱 N する」の N の意味関係には以下のような 2 つのタイプが見られる。一つは(8')の「N'P から脱線する」や(10a')の「N'P を脱臭する」のような「下位語－上位語」の関係である。もう一つは、(10b')のように「所属先－所属物」の関係である。

- (8') 電車が レールから 脱線する。  
(下位語) (上位語)
- (10') a. 作業員が 店内の臭いを 脱臭する。  
(下位語) (上位語)
- b. 作業員が 店内を 脱臭する。  
(所属先) (所属物)

このように、「脱 N する」は(i)内部構成、(ii)外部構成の自他性において複雑な様相を見せているが、従来はほとんど論じられていない。したがって、本研究では漢語サ変動詞「脱 N する」の意味的・構文的特徴について、内部構成、外部構成、および N'P と N の意味関係の 3 つの側面から分析する。

## 2. 本動詞の意味

「脱 N する」の意味的・構文的特徴について考察する前に本動詞の意味について概観する。「脱 N する」は以下の 3 つの本動詞に対応する。

(A) 脱ける(自)

例: 脱線する(線路から脱ける)、脱毛する(毛が脱ける)

(B) 脱く(他)

例: 脱臭する(臭いを脱く)、脱毛する(毛を脱く)

(C) 脱ぐ(他)

例: 脱衣する(衣を脱ぐ)、脱帽する(帽子を脱ぐ)

このうち、(A)「脱ける」は自動詞用法として用いられ、(B)「脱く」と(C)「脱ぐ」は他動詞用法として用いられる。また、「脱 N する」の中には、「脱毛する」のように「脱ける」(毛が脱ける)と「脱く」(毛を脱く)の二通りの本動詞と対応するものがある。

以下、「脱ける」、「脱く」、「脱ぐ」のそれぞれの意味について概観し、その中のいずれの意味と「脱 N する」が対応するかについて見る。

まず、自動詞「脱ける」について見る。「脱ける」は大きく以下の①～⑥の 6 つの意味に分けられる。このうち、「脱 N する」と対応するのは①と④である。

(A) 本動詞「脱(抜)<sup>1</sup>ける」の意味:

- ① 生えていたもの、中に入っていたもの、突き刺さっていたものが取れる。  
「髪の毛が抜ける」「腕の関節が抜ける」「歯が抜ける」「顔からしみが抜ける」「タイヤから空気が抜ける」「臭みが抜ける」「色が抜ける」「気が抜ける」
- ② 本来あるべきものが欠ける。  
「論文から目次が抜けている」「字が抜けている」「肝心な所が抜けている」
- ③ ある場所を通過して向こう側に出る。  
「トンネルを抜けると雪国だ」「人込みを抜けて裏通りに出る」
- ④ それまでいた場所やそれまで属していた組織・仲間から離れる。  
「線路から脱ける」「チームから抜ける」「党を抜ける」「仲間から抜ける」
- ⑤ ある場所・状況から逃れ出る。脱する。

---

<sup>1</sup> 表記上、「抜ける」の場合が多いが、意味①④⑤は「脱ける」とも記す。

「危ないところを無事に抜ける」「授業を抜ける」「最悪の状況から抜ける」

⑥ 知力が足りない。

「あの人は少し抜けている」「あの人は抜けたところがある」

次に、他動詞「脱く」の意味について見る。「脱く」は基本的に次の①～⑥の6つの意味に分けられる。このうち、「脱 N する」に対応するのは①の意味のみである。

(B) 本動詞「脱(抜)く」の意味：

- ① 生えているもの、中に入っているもの、突き刺さっているものなどを引っ張って取ったり、取り除いたりする。

「雑草を抜く」「眉毛を抜く」「刀を抜く」「歯を抜く」「とげを抜く」「タイヤの空気を抜く」「服に付いたしみを抜く」「アクを抜く」「色を抜く」「気を抜く」

- ② 型などを使ってある形にする。

「ハムを星形に抜く」「板を菱形に抜く」

- ③ 物を突き通し向こう側に出るようにする。つらぬく。

「ドリルで壁を抜く」「山を抜いてトンネルを作る」「バケツの底を抜く」

- ④ 手順などを省く。また、それなしで済ませる。

「朝食を抜く」「仕事の手を抜く」「前置きを抜いて本題に入る」

- ⑤ 相手を追い越して前に出る。

「タクシーがバスを抜く」「他者を抜いて優勝する」

- ⑥ スポーツで相手の守りを突破する。

「ライナーでサードを抜く」「打球がショートを抜く」

最後に、他動詞「脱ぐ」について見る。「脱ぐ」には以下の3つの意味が挙げられる。典型的には、①のように人が身に着けていたものを取る意味として用いられるが、②のように蛇や蟬のような動物が成長につれて古くなった外皮を取る意味としても用いられる。また、③のように、人がある目的のため裸になる意味としても用いられる。このうち、「脱 N する」の意味と対応するのは①と②になる。

(C) 本動詞「脱ぐ」の意味：

- ① 人が身に着けていたものを取る。

「服を脱ぐ」「帽子を脱ぐ」「靴を脱ぐ」「かぶとを脱ぐ」

- ② 動物が成長につれて古い外皮を取る。

「蛇が皮を脱ぐ」「蟬がからを脱ぐ」「カエルが皮を脱ぐ」

③ 芸能人などがある目的のため裸になる。

「あの女優もとうとう脱いだらしい。」

また、①の派生義として「一肌脱ぐ」や「かぶとを脱ぐ」、「ユニフォームを脱ぐ」などがある。「ひと肌を脱ぐ」は「息子のために一肌脱ぐ」のように他人のために力を貸すという意味で用いられ、「かぶとを脱ぐ」は「彼の実力にはかぶとを脱ぐ」のように降参するという意味で用いられる。また、「ユニフォームを脱ぐ」は意味①としての動作を表す意味のほかに、野球選手や監督などが現役を引退するという意味としても用いられる。

以上、「脱 N する」の本動詞「脱ける」、「脱く」、「脱ぐ」の意味について概観した。本動詞「脱ける」、「脱く」、「脱ぐ」のうち、「脱 N する」と対応する意味だけを並べると表 2 のようになる。

表 2 本動詞と「脱 N する」の対応関係

	本 動 詞	脱 N する
脱ける(自)	①生えていたもの、中に入っていたもの、突き刺さっていたものが取れる。例:「輪が抜ける」「腸が抜ける」「骨関節が抜ける」「毛が抜ける」「色が抜ける」「水が抜ける」	脱輪する、脱腸する、脱臼する、脱毛する、脱色する、脱水する
	④それまでいた場所やそれまで属していた組織などから離れる。例:「線路から抜ける」「監獄を(から)抜ける」「会を(から)抜ける」「党を(から)抜ける」「藩を(から)抜ける」	脱線する、脱獄する、脱会する、脱党する、脱藩する、
脱く(他)	①生えているもの、中に入っているもの、突き刺さっているものなどを引っ張って取ったり、取り除いたりする。例:「脂肪を抜く」「臭いを抜く」「穀粒を抜く」「毛を抜く」「色を抜く」「水を抜く」「歯を抜く」「刀を抜く」	脱脂する、脱臭する、脱穀する、脱毛する、脱色する、脱水する
脱ぐ(他)	① 人が身に着けていたものを取る。 例:「帽子を脱ぐ」「服を脱ぐ」「靴を脱ぐ」	脱帽する、脱衣する
	② 動物が成長につれて古い外皮を取る。 例:「皮を脱ぐ」	脱皮する

ここから「脱 N する」の意味は本動詞の意味より限定されることが分かる。つまり、本動詞「脱ける」は大きく①～⑥の意味を表すのに対し、「脱 N する」はそのうちの①と④に限定される。また、本動詞「脱く」は大きく①～⑥の意味を表すのに対し、

「脱 N する」はそのうちの①に限定される。一方、本動詞「脱ぐ」は①～③の意味を表すのに対し、「脱 N する」はそのうちの①と②に限定される。表 2 に示したように、本動詞の動詞句とそれに対応する「脱 N する」は、語用論的・文体的な意味には違いがあるにせよ、基本的に同じ事態を表している。例えば、「臭いを抜く」と「脱臭する」はどちらもある物に付いた臭いを抜くことを表し、「輪が抜ける」と「脱輪する」はどちらも車輪が車体から抜けることを表す。また、「服を脱ぐ」と「脱衣する」はどれも身に着けていた衣服を取ることを表す。

以上、第 2 節では本動詞「脱く」、「脱ける」、「脱ぐ」には様々な意味があるが、「脱 N する」はそのうちの一つまたは二つの意味に限定されることを見た。

### 3 「脱Nする」の特徴

本節では、「脱 N する」の意味的・構文的特徴について考察する。表 1 に示したように、「脱 N する」は (i) 内部構成要素の結合パターンによって大きく I 類～IV 類の 4 つに分けられる。また、(ii) 外部構成によってさらに脱帽類、脱腸類、脱皮類、脱線類、脱獄類、脱臭類、脱毛類、脱臼類の 8 つに分けられる。以下、それぞれのタイプの特徴について詳しく論じる。

#### 3.1 I 類:[N が脱ける]

このタイプの「脱 N する」は、内部構成において[N が脱ける]という自動詞の意味関係で結合されたもので、外部構成において 1) の自動詞用法のみのもの(「脱腸類」)と 2) の自他両用法のもの(「脱臼類」)の二通りがある。

##### 1) 「脱腸類」

まず、1)「脱腸類」の特徴について考察する。このタイプには、「脱腸する」、「脱肛する」、「脱糞する」、「脱力する」などの生理現象を表す動詞が挙げられる。

はじめに、(i) 内部構成について見ると、「脱腸類」は[N が脱ける]という無意志自動詞の意味になっており、N は〈移動物〉を表すことが分かる。例えば、「脱腸する」は腸が腹腔から脱けることを表し、「脱肛する」は肛門部や直腸の粘膜が肛門外に脱けることを表し、「脱糞する」は糞便が体外に脱けることを表す。

次に、(ii)外部構成を見ると、「脱腸類」はいずれも体内にある N(「腸」、「肛」、「糞」など)が何らかの影響によって元の場所から脱けることを表す。また、(13)の「泣きわめくと脱腸する」、(14)の「進行すると脱肛する」、(15)の「脱糞してしまう」のように主語の意志でコントロールできない事態を表す。

(13) 年子の弟がヘルニアで、泣きわめくと脱腸するから、泣かせないように母がつききりであやしてはならず、(後略)(朝日夕刊 2002 年 06 月 05 日)

(14) 痔には大きく分けて三つのタイプがある。最も多いのが(1)痔核(いぼ痔)で、直腸部分が一部ふくれ上がる内痔核では出血を起こしやすい。進行すると脱肛する。(朝日朝刊 2004 年 10 月 13 日)

(15) 幼少期を過ぎたあとは余程のことがない限り脱糞してしまう、ということはないだろう。だが状況によっては脱糞という事態に巻き込まれることも考えられ、おしっこ異なり我慢できる時間は大便の方が長いであろうが、もし万一我慢の限界を超えてしまった場合は最悪の事態となる。

(<http://dic.pixiv.net/a/%E8%16%B1%E7%B3%9E>)

「脱糞」は排便機能の発達していない乳幼児や排便機能の衰えた人、または排便機能に一時的な不具合が生じた人に起こる生理現象である。「脱糞する」と似た意味を持つ動詞に「排便する」がある。どれも「大便をする」という生理現象を表すが、両者は主体の意志性の面で大きく異なる。つまり、「脱糞する」は大便を漏らすという主体の意志でコントロールできないことを表すのに対し、「排便する」は大便を肛門から体外に排出するという、主体の意志でコントロールできることを表す点で異なる。

このように、「脱腸類」は外部構成において(16)の「子供が脱腸する」のように N'Pを取らない無意志自動詞の用法を持つ。この場合、主語は(16)の「子供」のように「脱 N する」という事態を経験する〈経験者〉を表す。

(16) 子供が 脱腸する。  
〈経験者〉 〈移動物〉

## 2) 「脱臼類」

次に、2)「脱臼類」について述べる。このタイプに属するものには「脱臼する」や「脱輪する」などが挙げられる。



まず、(i)内部構成について見ると、「脱臼類」は「脱腸類」と同じく[N が脱ける]という無意志自動詞の意味関係になっており、N は〈移動物〉を表す。例えば、「脱臼する」は[臼(骨 or 骨の関節)が脱ける]ことを表し、「脱輪する」は[輪(車輪)が脱ける]ことを表す。

「脱臼する」と「脱輪する」はいずれも主語の所有物の一部分が脱ける(外れる)という点で共通しているが、前者は人や動物(生物)を主語にする動詞であるのに対し、後者は車や自転車のように車輪を有する乗り物(無生物)を主語にする動詞であるという点で違いがある。

次に、(ii)「脱臼類」の外部構成について見る。外部構成において、1)「脱腸類」と2)「脱臼類」は異なる性質を有する。「脱腸類」の場合は、外部構成にN'Pを取らない無意志自動詞用法であった。それに対し、「脱臼類」の場合は(17a、b)、(18a、b)のように自動詞用法としても用いられれば、(17c、d)、(18c、d)のように他動詞用法としても用いられる。また、自動詞用法の場合は、ガ格に(17a)の「肩の骨」や(18a)の「車の左車輪」のように「脱 N する」の N の下位語を取る場合と、(17b)の「肩」や(18b)の「車」のように「脱 N する」の N の所属先を取る場合の二通りがある。同じく、他動詞用法の場合も、ヲ格に(17c)の「肩の骨」や(17c)の「車の左車輪」のように「脱 N する」の N の下位語を取る場合と、(17c)の「肩」や(18c)の「車」のように「脱 N する」の N の所属先を取る場合の二通りがある。また他動詞用法の場合、主語は N の所有者を表す。

- (17) a. 肩の骨が脱臼する。(自)  
b. 肩が脱臼する。(自)  
c. 太郎が肩の骨を脱臼する。(他)  
d. 太郎が肩を脱臼する。(他)
- (18) a. 車の左前輪が脱輪する。(自)  
b. 車が脱輪する。(自)  
c. 花子が車の左前輪を脱輪する。(他)  
d. 花子が車を脱輪する。(他)

ただし、「脱臼類」は他動詞用法の場合、主語はヲ格目的語に対して働きかける〈動作主〉ではない。例えば、(17b、d)は、どれも主語の「太郎」は、自分の肩の骨に対して意図的に働きかけるのではなく、肩の骨が脱けるという出来事を経験する

主体である。(18b、d)も同様に、主語(花子)は自分の所有している車の車輪が脱けるという出来事を経験する主体である。このように、「脱臼類」の他動詞用法の主語は出来事を引き起こす〈動作主〉ではなく、出来事を経験する〈経験者〉を表す。

### 3.2 II 類:[N から脱ける]

このタイプの「脱 N する」は、内部構成においては[N から脱ける]という自動詞の意味関係で結合され、外部構成においては 3)の無意志自動詞用法(「脱線類」と 4)の意志自動詞用法(「脱獄類」)の二通りがある。

#### 3) 「脱線類」

まず、3)の「脱線類」について論じる。このタイプに属するのは「脱線する」の1語しか見当たらない。

はじめに、(i)内部構成について見ると、「脱線する」は[線路から脱ける]というカラ格の意味関係で結合されており、Nは〈離脱点〉を表す。

続いて、(ii)「脱線する」の外部構成について見ると、「脱線類」は(19a)のように N'P が顕在化しない場合もあれば、(19b)のように N'P (カラ格)が顕在化する場合もある。N'P が顕在化する場合、N'P(ルール)は〈離脱点〉を表し、「脱線する」の N と「下位語—上位語」の関係を示す。

- (19) a. 快速電車が脱線する。  
b. 快速電車が ルールから 脱線する。  
                    〈離脱点〉 〈離脱点〉  
                    (下位語) (上位語)

また、「脱線する」は、(19b)のように乗り物が走っている線路から外れるという視覚的な動きを表す意味から転じて(20)、(21)のように抽象的な決まった路線から外れるという意味を表す場合がある。(20)の「子どもが大人の敷いたルールを脱線する」は、子どもが大人の敷いたルール(大人が理想とする出世への道)から外れることを表し、(21)の「日本経済が正常な成長軌道から脱線する」は、日本経済が正常な成長軌道から外れることを表す。

- (20) それも保護者は少しでも高収入が得られる仕事に就くことが子どもの幸せ  
            と思いこみ、高学歴を望み、大人の敷いたルールを突き走らせている。そ

のレールから脱線したとき、どうなるのだろうか。(朝日朝刊 2005 年 11 月 20 日)

- (21) 市場は、最近の景気低迷の長期化から日本経済が正常な成長軌道から脱線したままになってしまいかもしれないと、恐怖感にかられている。(中日夕刊 1924 年 08 月 10 日)

また、(22) (23) のように「脱線する」の N(線路)がさらに抽象化して話が本来の意図した内容から外れる意味としても用いられる。

(22) 議論が本題から脱線する。

(23) スピーチがテーマから脱線する。

「脱線する」のこのような派生的な意味は「\*議論が本題から脱ける」、「\*スピーチがテーマから脱ける」とは言えないように本動詞「脱ける」にはなく、通常「話が逸れる」、「話がずれる」のように表現する。

このように、「脱線する」はいずれの意味も主語の意志でコントロールできない無意志自動詞としての用法を持つ。

#### 4) 「脱獄類」

次に、4) の「脱獄類」の特徴について論じる。「脱獄類」には「脱獄する」、「脱会する」、「脱党する」、「脱藩する」などが挙げられる。

はじめに、(i) 内部構成について見ると、「脱獄類」は[N を(から)脱ける]という意志自動詞の意味関係で結合されており、N は〈離脱点〉を表わす。例えば、「脱獄する」は[獄を(から)脱ける]こと、「脱党する」は[党を(から)脱ける]こと、「脱藩する」は[藩を(から)脱ける]ことを表す。

3) の「脱線類」も 4) の「脱獄類」も[〈離脱点〉から脱ける]という内部構成を持つ点では共通しているが、前者は[N を脱ける]という意味関係を持たないのに対して、「脱獄類」は[N を脱ける]と[N から脱ける]という二通りの意味関係を持つ点で異なる。内部構成におけるこのような違いは外部構成において見られる。

「脱獄類」は(ii) 外部構成においても内部構成と同じく、(24)～(27) のように N'P にヲ格またはカラ格を取って意志自動詞用法として用いられる。この場合、主語は〈動作主〉でもあり、実際に移動する〈移動物〉でもある。また、ヲ格またはカラ格の N'P は〈離脱点〉を表し、N とは「下位語－上位語」の関係になっている。

- (24) 捕虜が 収容所{を/から} 脱獄する。  
 〈動作主・移動物〉 〈離脱点〉 〈離脱点〉  
 (下位語) (上位語)
- (25) 太郎が 医師会{を/から} 脱会する。  
 〈動作主・移動物〉 〈離脱点〉 〈離脱点〉  
 (下位語) (上位語)
- (26) 太郎が 自民党{を/から} 脱党する。  
 〈動作主・移動物〉 〈離脱点〉 〈離脱点〉  
 (下位語) (上位語)
- (27) 坂本龍馬が 土佐藩{を/から} 脱藩する。  
 〈動作主・移動物〉 〈離脱点〉 〈離脱点〉  
 (下位語) (上位語)

「脱獄類」が外部構成においてカラ格もヲ格も取り得るのに対し、「脱線類」は(28)～(30)のように外部構成においてカラ格は取り得るが、ヲ格を取ることはできない。また、「脱獄類」は「脱線類」と違って、主語の意志で所属していた組織を離脱することを表す。

- (28) 快速電車がレール{から/\*を}脱線した。  
 (29) 日本経済が正常軌道{から/\*を}脱線した。  
 (30) 議論が本題{から/\*を}脱線した。

### 3.3 Ⅲ類:[Nを脱く]

このタイプの「脱Nする」は、内部構成において[Nを脱く]という他動詞の意味関係で結合され、外部構成においても他動詞用法として用いられる。このタイプは「脱臭類」の一種類のみである。

#### 5) 「脱臭類」

「脱臭類」には「脱臭する」、「脱脂する」、「脱穀する」などの動詞が挙げられる。まず、(i)内部構成について見ると、「脱臭類」は[Nを脱く]という他動詞の意味関係になっており、Nは〈移動物〉を表す。例えば、「脱臭する」は[臭を脱く]、「脱脂する」は[脂を脱く]、「脱穀する」は[穀を脱く]ことを表し、ある場所についているNをそこから取り除く意味を表す。このうち「脱穀する」には「穂から穀粒(粃)を取り離す」という意味と、「穀粒(粃)から粃殻を取り除く」という意味の二通りに使わ

れる。いずれにせよ「脱穀する」は〈離脱点〉である「穂」や「穀粒(粃)」から〈移動物〉である「穀」から離脱することを表している。

次に、(ii)外部構成と(iii)N'PとNの関係について見る。このタイプは(31a)～(33a)のようにN'PにNの下位語(「ニオイ」、「油分」、「もみ」)を取る場合もあれば、N'PにNの所属先(「店内」、「生乳」、「稲」)を取る場合もある。そして、いずれの場合も他動詞的にNをその所属先から離脱させることを表す。

(31) a. 壁面パネルには壁に付いたニオイを脱臭する二つの機能を採用。

(日経産業新聞2008年10月23日)

b. 焼き肉店などにおいづきやすい店でも、夜間にオゾンが発生させることで店内を脱臭できるという。(日本経済新聞2008年10月08日)

(32) a. ベンチャー企業として、水も溶媒も使わずに油分を抜き取り乾燥も不要な「炭酸ガス洗浄装置」の開発に成功した。(中略)炭酸ガスは、高圧で液体と気体の中間で「超臨界」状態になり、微細な構造に入り込んで油分を簡単に脱脂する。(朝日朝刊2002年02月20日)

b. 「カルピス」のおいしさは、良質な生乳を脱脂し、独自の「カルピス菌」で発酵・熟成を重ねることで生まれます。

(<http://www.calpis.co.jp/index.html>)

(33) a. 子どもたちは「よいしょ」とペダルを踏みながら、回転するローラーに稲を差し入れ、もみを脱穀。(中日朝刊1930年10月13日)

b. 五年生児童三十五人が千歯こきや足踏み脱穀機を使い、自分たちで育てた稲を脱穀する体験をした。(中日朝刊2011年11月03日)

#### 3.4 IV類:[Nを脱ぐ]

このタイプの「脱Nする」は、内部構成においては[Nを脱ぐ]という他動詞の意味で結合されているが、外部構成の「脱Nする」全体はN'P(ヲ格目的語)を取らずに自動詞用法として機能するという特徴がある。このタイプは「脱 N する」の中で「脱帽類」の一種類のみである。

## 6) 「脱帽類」

このタイプには「脱帽する」と「脱衣する」<sup>2</sup>が挙げられる。

まず、(i) 内部構成について見ると、「脱帽類」は[N を脱ぐ]という他動詞の意味関係になっており、N は〈移動物〉を表す。例えば、「脱帽する」は[帽(子)を脱ぐ]、「脱衣する」は[衣を脱ぐ]のように主体が身に着けていた N(「帽子」、「衣」)を脱ぐことを表す。

続いて、(ii) 外部構成について見る。「脱帽類」は(34)や(35)のようにヲ格(N'P)を取らない自動詞用法として用いられる。

(34) 選手たちは落ち着かない表情で整列していた。内田太校長がやってきて出場決定を知らせると、脱帽し、深々と一礼した。(朝日朝刊 2012 年 01 月 28 日)

(35) 当保健所では、再検査の撮影の際に正確な診断を行うため、着衣にワイヤ、ボタン等の付属物があることを想定して、脱衣していただくようにお願いしているところです。(朝日朝刊 1993 年 05 月 13 日)

このうち、「脱帽する」は「帽子を脱ぐ」という意味のほか(36)のように「相手に敬服する」という意味や(37)のように「相手に降参する」という意味としても用いられる。

(36) チリの鉱山落盤事故で、人間の「生きる」ことへの執念、そして力強さに脱帽した。(朝日朝刊 2010 年 10 月 20 日)

(37) 北海の平川敦(おさむ)監督は「要所をきっちり投げられた。お手上げと言うより完敗です」と脱帽した。(朝日朝刊 2012 年 07 月 22 日)

(36)と(37)は、主体が実際にかぶっていた帽子を脱ぐという具体的な動作を表すのではない。(36)は主体(ここでは筆者)が人間の生きることへの執念と力強さに敬服することを表し、(37)は主体(ここでは「平川敦監督」)が負けた相手に降参することを表す。「脱帽する」のこのような意味は身に付いていたものを脱ぐという原義から派生したものと考えられる。

---

<sup>2</sup> 「脱衣」は「脱衣場」や「脱衣棚」などのように名詞として使われるのがほとんどであり、「脱衣する」のようにサ変動詞として用いられる例は極めて少ない。しかし、実例として存在するのも確かなので、本研究では「脱帽類」に入れて考察している。

### 3.5 I 類+Ⅲ類

このタイプは、内部構成において I 類の[Nが脱ける]という自動詞の意味にもⅢ類の[Nを脱く]という他動詞の意味にもなるものである。外部構成においても自他両用法で用いられる。

#### 7)「脱毛類」

このタイプには「脱毛する」、「脱水する」、「脱色する」などの動詞が挙げられる。

まず、(i)内部構成について見ると、「脱毛類」は、例えば、「脱毛する」は[毛が脱ける]という自動詞の意味として使われることもあれば、[毛を脱く]という他動詞の意味として使われることもあり、「脱水する」は[水が脱ける]という自動詞の意味として使われることもあれば、[水を脱く]という他動詞の意味として使われることもある。このように、「脱毛類」は内部構成において(38)のように I 類の[Nが脱ける]という自動詞の意味としても、Ⅱ類の[Nを脱く]という他動詞の意味として使われ、Nはいずれも〈移動物〉を表す。

(38)「脱毛類」の内部構成:

I 類:[毛が脱ける](自)・・・「毛」は〈移動物〉

Ⅲ類:[毛を脱く](他)・・・「毛」は〈移動物〉

次に、(ii)「脱毛類」の外部構成について見ると、このタイプは(39a)の「頭髪全体が脱毛した」や(39b)の「背中全体が脱毛している」のような自動詞用法と(40a)の「ムダ毛を脱毛する」や(40b)の「わきを脱毛する」のような他動詞用法の二通りがある。

(39) a. 相談の中には、「毛染め剤で二週間後に頭髪全体が脱毛した」など、深刻な被害も見受けられた。(中日朝刊 1997 年 07 月 15 日)

b. 市内で初めてダニが原因で背中全体が脱毛しているタヌキも確認されており、山本さんは「このペースでタヌキが集まり、みんなで協力して解剖、分析していけば、来年には都市部に住むタヌキについて、本格的な調査結果をまとめることができるだろう」と話している(朝日朝刊 1991 年 12 月 02 日)

(40) a. お肌を傷つけるのを避けるために高額な脱毛クリームを使ってムダ毛を脱毛する方法もありますが、毛深いと思うように脱毛できなかつたりし

ます。(http://mudagedatumou.yukigesho.com/)

- b. 女性はどこを、どの程度の頻度で脱毛するのか。ジレットジャパンが昨年七、八月、関東、近畿の十五歳から五十九歳までの女性約千人を対象に、むだ毛の手入れ方法についてアンケートをした。六年前の調査と比べるとわきを脱毛する女性が大幅に増えた、などの結果が出た。(朝日朝刊 1993 年 02 月 22 日)

ただし、「脱毛する」の自動詞用法と他動詞用法は自他対応を成さないので、注意が必要である。通常、自他対応とは「花子が卵を割る」(他)と「卵が割れる」(自)のように他動詞の目的語が自動詞の主語になる場合を指す。しかし、(41a)、(42a)の自動詞用法は(41b)、(42b)のように対応する他動詞用法を持っていない。他動詞用法として用いる場合は、「頭髮全体を脱毛させた」や「背中全体を脱毛させた」のように使役形で示す必要がある。

- (41) a. 毛染め剤で頭髮全体が脱毛した。(自)  
b. \*毛染め剤が頭髮全体を脱毛した(→頭髮全体を脱毛させた)。(他)
- (42) a. ダニが原因でタヌキの背中全体が脱毛している。(自)  
b. \*ダニがタヌキの背中全体を脱毛した  
(→背中全体を脱毛させた)。(他)

同様に、(43a)、(44a)の他動詞用法も(43b)、(44b)のように対応する自動詞用法を持っていない。自動詞用法として用いる場合は、矢印の右に示した「ムダ毛が脱毛される」や「わきが脱毛される」のように受け身形で示す必要がある。

- (43) a. 脱毛クリームでムダ毛を脱毛する。(他)  
b. \*脱毛クリームでムダ毛が脱毛する(→ムダ毛が脱毛される)。(自)
- (44) a. 女性がわきを脱毛する。(他)  
b. \*わきが脱毛する(→わきが脱毛される)。(自)

最後に「脱毛する」の N'P と N の関係について見ると、自動詞用法の場合は(45a)の「頭髮全体が脱毛した」のように N'P(ガ格)に「脱毛する」の N(「毛」)の下位語(「頭髮全体」)を取ることでもできれば、(45b)の「背中全体が脱毛している」のように N'P(ガ格)に N の所属先(「背中全体」)を取ることでもできる。同じく、他動詞用法の場合も(46a)の「ムダ毛を脱毛する」のように N'P(ヲ格)に N の下位語を取ると(46b)の「わきを脱毛する」のように N'P(ヲ格)に N の所属先を取るとの



二通りがある。

- (45) a. 頭髮全体が 脱毛した。(自)  
(下位語) (上位語)
- b. 背中全体が 脱毛している。(自)  
(所属先) (所属物)
- (46) a. 女性が ムダ毛を 脱毛する。(他)  
(下位語) (上位語)
- b. 女性が わきを 脱毛する。(他)  
(所属先) (所属物)

同様に、「脱水する」、「脱色する」のような動詞も (i) 内部構成、(ii) 外部構成において「脱毛する」と同じ特徴を有する。つまり、自動詞用法は自然現象として用いられ、このうち(47a)～(49a)のガ格は N の下位語を表し、(47b)～(49b)のガ格は N の所属先を表す。一方、他動詞用法は動作主の N を除去するという意志的行為を表し、このうち、(50a)～(52a)のヲ格は N の下位語を表し、(50b)～(52b)のヲ格は N の所属先を表す。

自動詞用法:

- (47) a. 早朝、朝霧の中で摘んだ花びらを、水中でよくもんで、ざるに取り、水を注ぐと、黄色が脱色して赤色が残る。(朝日朝刊 2011 年 01 月 18 日)
- b. 酸性雨が降ると花びらが脱色、大気汚染の影響を受けると葉が変色したりするという。(朝日朝刊 1991 年 06 月 12 日 )
- (48) a. これは稲の水分が脱水することから起きる現象である。
- b. 長友さんが稲の変化を感じ始めたのは7月中旬の台風4号の通過後。稲は次第に白く色が抜けたようになった。稲が脱水したことなどから起きる「白穂」という被害だ。(朝日朝刊 2007 年 08 月 31 日 )
- (49) a. お年寄りは温度が高いと体内水分が脱水しやすい。
- b. 熊川医師は「お年寄りは温度が高いと脱水、低いと肺炎にかかりやすい」と、温度変化への弱さを指摘する。(朝日朝刊 1995 年 11 月 07 日)

他動詞用法:

- (50) a. Bが事故直後に友達の家で髪の色を脱色し服を着替えたのを他の人

が見ている。(朝日朝刊 1989 年 03 月 04 日)

- b. 前日、髪の毛を脱色して金髪に染めたが、卒業式に出席するだけの  
ため、黒いスプレーをかけていたのだ。(朝日朝刊 1999 年 03 月 22  
日)

(51) a. 衣類の水分を脱水する。

- b. 私が新婚の頃、洗濯機の横に衣類などを脱水するためのローラーが  
ついていて。(朝日朝刊 2006 年 09 月 02 日)

(52) a. 底のへドロの水分を脱水する。

- b. 底のへドロを脱水し、肥料として再資源化する措置は、「連続式真空  
プリコートフィルター」という。(朝日朝刊 1988 年 06 月 25 日)

#### 4. まとめ

本研究では、「脱 N する」の意味的・構文的特徴について、(i)内部構成、  
(ii)外部構成、(iii)N'PとNの意味関係の3つの側面から分析した。その結果を  
まとめると表3のようになる。

表3 「脱Nする」の諸特徴

		N'P 無		N'P を取る					
		脱 帽 類	脱 腸 類	脱 皮 類	脱 線 類	脱 獄 類	脱 臭 類	脱 毛 類	脱 白 類
(i) N の特徴	〈移動物〉	○	○	×	×	×	○	○	○
	〈離脱点〉	×	×	○	○	○	×	×	×
(ii) N'P の特徴	〈移動物〉	×	×	×	×	×	○	○	○
	〈離脱点〉	×	×	○	○	○	○	○	○
(iii) N'P と N の関係	下位語-上位語	×	×	○	○	○	○	○	○
	所属先-所属物	×	×	×	×	×	○	○	○

表3に示すように、「脱 N する」は N'P を取らないタイプ(「脱帽類」「脱腸類」と  
N'P を取るタイプ(「脱皮類」「脱線類」「脱獄類」「脱臭類」「脱毛類」「脱白類」)に  
大きく分かれる。さらに、N'P を取るタイプの場合は、N が〈移動物〉を表すか〈離脱

点)を表すかによってその外部構成および N'P と N の関係が大きく異なる。N が〈移動物〉を表す場合(「脱臭類」「脱毛類」「脱臼類」)は、N'P に〈移動物〉が来る場合も〈離脱点〉が来る場合もあるのに対し、N が〈離脱点〉を表す場合(「脱皮類」「脱線類」「脱獄類」)は、N'P に〈離脱点〉が来る場合のみであり、〈移動物〉が来ることはない。また、N'P を取る場合、その N'P と N の関係には下位語-上位語の関係(「脱皮類」「脱線類」「脱獄類」「脱臭類」「脱毛類」「脱臼類」)と所属先-所属物の関係(「脱臭類」「脱毛類」「脱臼類」)がある。

本研究から分かるように、V-N 型漢語動詞については、N と N'P の関係だけでなく、N と N'P と V の三者間の関係が統語機能に影響を与えている。このことから V-N 型漢語動詞の統語機能の解明には N と N'P と V の 3 つの要素を合わせて分析することが重要であると言える。「除 N する」、「離 N する」、「着 N する」、「脱 N する」に限らず「入 N する」、「出 N する」など、日本語には動詞的要素と名詞的要素が格関係で結合された V-N 型漢語動詞が多く存在する。これからも引き続きこのような個別的研究を積み重ねることで、V-N 型漢語動詞の統語機能について考察を深めたい。

[参考文献]

- 小林英樹(2001)「動詞的要素と名詞的要素で構成される二字漢語動名詞に関する再考」『現代日本語研究』8, pp.75-95
- 小林英樹(2004)『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房
- 張 善実(2011)「漢語サ変動詞「受 N する」の意味と構文—「Nを受ける」との比較から」『ことばの科学』24, pp.61-80
- 張 善実(2013a)「漢語サ変動詞「除 N する」の意味と構文」『言葉と文化』14, pp.19-35
- 張 善実(2013b)『日本語の V-N 型漢語動詞の語構成論的研究—離脱・帰着を表す動詞を中心に—』博士学位論文, 名古屋大学
- 張 善実(2013c)「漢語サ変動詞「離 N する」の意味と構文」『ことばの科学』26, pp.133-152
- 張 善実(2016)「漢語サ変動詞「着 N する」の意味と構文」『ことばの科学』30, pp. 59-78

中川秀太(2005)「推論による VN の外部表示の特殊化」『日本語文法』5-1,  
pp.89-103

**付記:**本研究は上海師範大学文科科研経費「表示离脱、归着意义的 V+N 式サ  
变动词词干的语义句法研究(研究代表者:張善実、経費番号:A-0230-16  
-001006)」の助成を受けたものである。